

30年前、大崎のまちに生まれた “もう一つのキラ星”「トット文化館」

過去から現在、未来へと受け継がれていく「ふるさと大崎」のDNA(原風景)を訪ねる『おおき今昔物語』。
その第二十二話は、今から30年前、あの“窓ぎわのトットちゃん”(黒柳徹子氏)の支援で誕生した社会福祉施設「トット文化館」の話。

それは、大崎に明かりを灯した大崎ニュー・シティの竣工や、「しながわ夢さん橋」のスタートとも重なる年。人と人、人とまちが優しさでつながり始めた“光明の年”でもありました。



◀自家農園野菜の栽培
トット文化館

ろう者劇団による手話の狂言・創作劇等を公演

History

昭和56年3月5日

- ・社会福祉法人トット基金設立準備委員会の発足
- ・黒柳徹子著「窓ぎわのトットちゃん」の著作権を受領

昭和56年12月28日

- ・社会福祉法人設立認可(厚生労働省)

昭和57年1月11日

- ・社会福祉法人設立

昭和57年3月31日

- ・第二種事業厚生相談事業、ろう者劇団事業開始



昭和62年3月31日

- ・トット文化館完成

昭和62年4月10日

- ・第一種事業身体障害者授産事業開始

平成24年4月1日

- ・大規模改修
- ・就労継続支援(B型)事業に移行



30年前、まちを挙げて 「トット文化館」の創業をサポート

大崎での「トット文化館」の誕生は、多くの人々からの期待と支持のもと、まちを挙げてサポート活動によって迎え入れられています。大崎駅職員の方々の協力による、「トット文化館」までの誘導表示の設置



作業もその一つ。駅から現地まで、迷うことのない様、分かりやすく視覚に訴える案内表示板をきめ細かくリレー配置。真心で導く頼もしい道しるべともなりました。



丹精込めて育てた野菜は、トット文化館で直売。貴重な地産地消の農産物として地域の人々の人気を集めています。



野菜栽培のほかにも、当館では施設利用者の方々の手により、様々な受注作業や自主製品の製造を行っています。

Information

これからやること、伝えたいこと。トット文化館からのご案内

とりたてのフレッシュ農園野菜を、トット文化館入口で販売しています。

心を込めて育てた農園野菜を、平日14:00~17:00に入口エントランスにて販売しています。(尚、収穫状況や天候等により販売を休止する場合があります。)

製造技術を駆使して多目的な商品開発を推進。自主製品として販売しています。

トット文化館では、独自の商品開発にも力を注いでいます。ご要望に応えた幅広い自主製品にご期待ください。



2018年
2月17日(土)・18日(日)

地域の人々も参加する絵画展

トット基金が実施する障害者芸術文化活動普及支援事業「アーツサポ東京」主催による一般参加の絵画展が、来年2月、トット文化館にて2日間にわたって開催されます。ここでは、障害のある方々のみならず、この地域に暮らす一般の人々も自由に参加できるほか、しながわ美術家協会からの招待作品も展示会場を飾ります。「トット文化館」発、広く地域社会とつながり、広がっていく「アートな活動」の成果を、ぜひご覧ください。



品川区の江戸野菜復活の取り組みに力を注ぐ当館では、かつての品川産物「品川蕪(カブ)」(写実)の栽培も積極的に行っています。(12/23[土・祝]には品川神社で品評会も開催される予定です。)



トット文化館の庭に広がる約230㎡の農園では、当館で作業する利用者の方々とスタッフ、さらにボランティアの皆さんとが力を合わせ、手づくり野菜の栽培を行っています。



社会福祉法人トット基金
理事長 黒柳 徹子氏

大ベストセラー「窓ぎわのトットちゃん」に導かれた、「優しさ」と緑の福祉事業」
1981年に出版され一大ベストセラーとなった「窓ぎわのトットちゃん」。あの黒柳徹子氏の著名な執筆本の発行から「トット文化館」は誕生しています。それは、黒柳氏からの本の著作権譲渡に基づき社会福祉法人「トット基金」が創設され、その事業の一環として「トット文化館」がつけられたからです。「トット文化館」では現在、就労継続支援B型施設として、主に聴覚障害者の方々の自立に向けた作業訓練や生活上の支援を実施。簡易作業をはじめ、

庭にある農園での園芸作業などを、スタッフや農園ボランティアの皆さんと一緒に進めています。とくに、皆で育てた新鮮な野菜やオリジナルグッズを公開販売する独自の活動は、優しさ創造性に満ちた緑のサポート施設として注目を集めています。「トット文化館」の運営元「トット基金」では、また、ろう者劇団の活動にも力を傾注、手話による狂言や創作劇を世界各地で講演してきました。全ての人が楽しめるその舞台は、文化庁芸術祭賞を受賞するなど高い評価を獲得。文化館での手話教室も含めて手話を介したつながりの輪を広げています。30年前、まちに輝いたキラ星は、今も、人のまち「大崎」のシンボルの一つとなって、優しく力強い光を大崎にもたらしています。